

平成12年（2000年）には渡辺三兄弟が躍動し、注目を浴びた。貴斗が全国小学生・全日本ジュニア12歳以下シングルスに出場し、双子の兄である、北斗と勇斗が全国中学生ダブルスの出場を果たした。

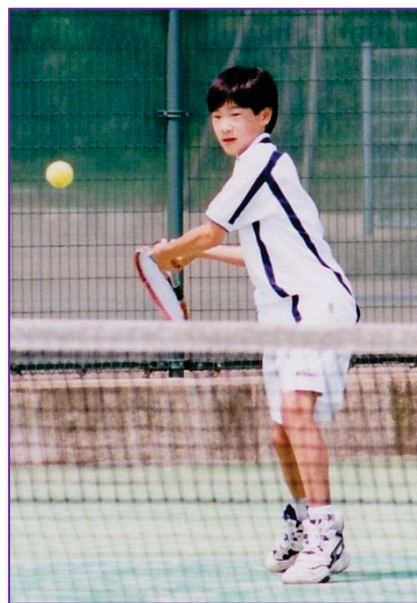
北斗と勇斗は小松高校に進学し、双子のテニスプレーヤーとして大いに話題となった。

貴斗は金沢高校に進学し、エースとしてインターハイ、団体・シングルス・ダブルス、全国選抜に出場した。



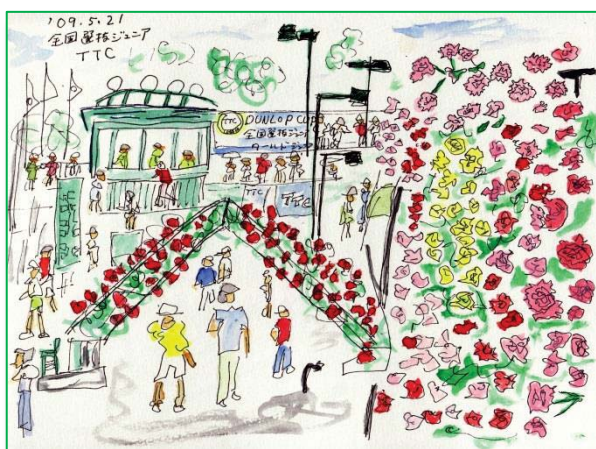
渡辺北斗・渡辺勇斗

高校総体県予選の北斗と勇斗。息のあったプレーで相手を翻弄した。



渡辺貴斗

貴斗はセンスのよいタッチで小気味よく攻めのテニスを展開した。



TTC（吉田記念テニス研修センター）全国選抜ジュニア



鞆公園テニスコート 全日本ジュニア

<ジュニア選手、憧れのテニスコート>（スケッチ 沢野唯志）

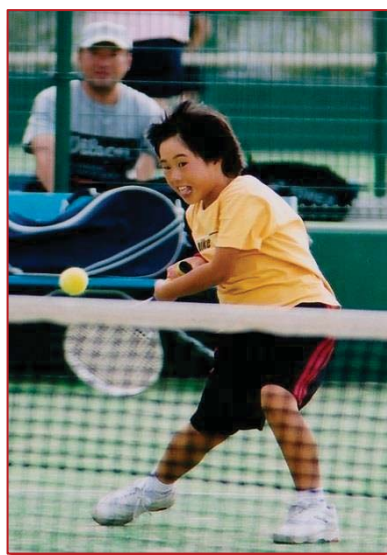
---

平成15年からは、坂川志帆の活躍が輝きを発する。この年、全国小学生・全日本ジュニア12歳以下シングルス出場を果たすと、その後16年には全日本ジュニア14歳以下シングルス・全国選抜ジュニア14歳以下、17年には全日本ジュニア14歳以下シングルスベスト16・全国中学生、18年にはトヨタジュニア・全国中学生ベスト16、そして北信越ジュニアから派遣されたオレンジボール（USA・マイアミ）では世界の精鋭と闘いベスト16に入った。長尾谷高校に進学してからは全国高校選抜と全国高校総体団体優勝のメンバーとしてその栄冠に貢献した。

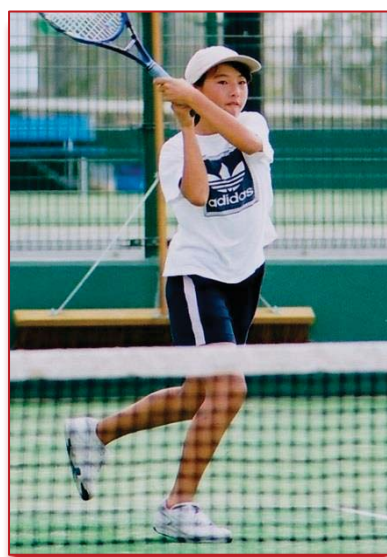
この時期に高校生で活躍したのが淀川裕美である。その素質が開花したのは平成16年、全日本ジュニア16歳以下ダブルスに出場すると、翌年からは星稜高校に進学して3年間主力として石川県高校テニス界をリードした。18年には坂川志帆とともに国民体育大会（少年女子）に出場してベスト16に入り、その後、石川県女子の第一人者として国民体育大会に2回出場した。

大学進学後も二人はインカレ・全日本選手権にも2回出場し、県下のテニス界を牽引した。

---



坂川志帆      ファイトあふれるプレーで、最後まであきらめずにボールを追い続けた。



淀川裕美      マナーのよさと、基本に忠実なプレーは、ジュニア選手のお手本となった。